

〈ケアプランセンターあたご 事業報告〉

令和 6 年度

1. 居宅サービスの計画を作成するにあたり、利用者の心身の状況や生活状況・環境を勘案し、利用者やその家族の意向を尊重した上で自立生活を営めるよう利用者の立場にたった居宅サービス計画書を作成し、支援を実施した。
2. 主任介護支援専門員を中心に対応困難ケースの報告を行い、事業所内での共有・必要時には地域包括支援センターの協力を得ながら対応を行った。新規ケースにおいても事業所内で情報共有を密に行い、連携・対応を務めた。
3. 多摩市内の地域包括支援センターから介護予防プランの受託を積極的に受け、協働で支援を行った。
4. 様々な事情のある利用者に対して適切な対応が取れるよう外部研修に積極的に参加をすることで技術の向上・自己研鑽に励み、各種制度やインフォーマルサービスの熟知・また、医療との連携にも努めた。他事業所との定例の研修でも事例検討等を行うことでケアマネジメントの技術向上に努めた。
5. 特定事業所加算算定事業所として、介護支援専門員実務研修実習生を受け入れ人材育成への協力を行う体制を事業所内で整え、令和 6 年度は 2 名の実習生を受け入れた。